

コヴェントリーII サイクル劇 (XIV)

橋 本 侃

第二十三番演目 誘惑

(1)

サタン ところで、地獄にふさわしい悪魔のベルヤードとベルゼバブよ、写本百十六頁
もつとも智慧のある相談役たちよ、

これから言つて聞かせる話を良く聞け――

大いに疑わしい話であるから余計に、胃の腑がひどく痛むのだ。

ベルヤル 我らが主君のサタンさま、いつでもお傍におりますので

なんなりとお命じください――頭こゝろを下げて従います。

我らの智慧を必要となさるなら、

疑問のすべてを余さずお聞かせください、

すべての疑いを直ぐに口にお出しください。

ベルゼバブ そのとおりです、疑いの向きを直ぐにおっしゃってください。

さすれば、我らの答えを確かにお伝えできましょう。

そうならば、しかと明らかにいたしましょう、

ご疑問の意味を。

(2)

サタン わしが抱えているのはキリストについての疑問だ。

ベツレヘムで産まれたと言われていて、

神の子であると多くの者が考えている——

女から産まれたが、その女は穢れのない乙女である、という。

それに、そいつが説教するのは天国の喜悦についてのみであるそうだ。

わしがひどく恐れているのは、そいつが我らの掟をないがしろにしてしまうことだ。

奴の父親が一体全体、誰なのか知りたいものだ。

このような大きな疑いがあるから氣勢がそがれてしまうのだ、

本当のところ。

もし奴が神の子であり、

従順な乙女から産まれたのであれば、

我らはひどく騙されていることになる。

我らの栄華も短いものとなるう。

(3)

それゆえ、少しでもいいから明らかにせよ、

この大きな疑問について何をするのが一番いいかを。

もし奴が神の子ならば、厄介な事をしでかすにきまっているし、

我らを苦しめ、ついには破滅を我らにもたらすであろう。

奴は悲痛と心配事を撒き散らすぞ――

我らの良き日々はまもなくことごとくついでてしまい、

奴は我らの教えと掟のすべてを切り刻むであろう。

もしそうなる、その時には、我らは皆が皆、破滅するだろう。

奴は我らのすべてを怒らせ、

天国と地獄を支配する王となり、

我らの財産をすべて持ち去るだろう。

それゆえ、今ここで、なにか良い忠告をなせ、

どのような慰めごとでもいいから一番いいやつを。

(4)

ベルヤル わたしが口にできる最善の知恵は

奴をしかるべく誘惑することです、

できるのなら巧妙な罫を用いて。

奴に間違いを起こさせるように試みるのです。

これは否定できません——もし罪を犯せば、

奴が喜悅の王であるはずがありません。

あなた流に振舞って誘惑をします。

これが最善の忠告であると信じます。

さあ、行って、試してご覧なさい。

ベルゼバブ それが最善の智慧であると考えられます、

奴を三つの罪に誘惑するのです、

人間はそれら三つの罪に、心もろくも

必ず直ぐに落ち込むものです。

(5)

サタン よし、お前の智慧に従って行動することにしよう。

これ以上この場所でぐずぐずしてはいられない。

奴が賢い学者であったとしても、

寸時のうちに立ち向かってみせる。

ベルゼバブ さあ、真つ暗闇な地獄においてうるわしいルチフェルさま、
罪と傲慢の王で主である方、

奴の智慧をいくらかの霧で曇らせるために

あのマホメット様はあなたを導くように恩寵を送られます。

さらには、あなたの栄華となさるためにです。

(6)

ベルヤル 地獄にいるすべての悪魔に、

わしが責任を持って、モハメッドに祈りを捧げさせましょう――

この旅が思惑どおり旨く行きますように、

これからの行為で、ご自身も慰めを得られますように、と。

(7)

イエス 四十日と四十夜、

人間のために、断食を続けてきた。

誰もこれよりも大きな空腹を味わったことはない、

わたし自身が実際に味わった以上には。

空腹ゆえに強い苦しみの中のわたしは置かれた。

空腹を和らげるパンはない。

ほんの一切れのパンで空腹から救われるのだが、
慰めになる一口のパンもない。

人間よ、あなたのために、このように苦しんでいるのだ。

あなたの大食の罪と、あなたが間違った物を食べるせいで、

あなたのために、この強い飢餓感に苦しんでいる。

長いこと掛かるのではないかと心配している、

あなたがわたしのために、このようにしてくるには。

(8)

サタン お前が神の子であるのなら、

神の偉大な力によって、

見せてくれ、これらの硬い石を直ぐに、

これらの硬い石から、柔らかいパンへ変えるところを。

俺の言うとおりにするなら、もっといいことになる――

俺の忠告に従って分別をもって働き、

偉大なる君主としてのお前の力を現わせばいい。

大いなる空腹のせいで死ぬよりは、

これらの石を、さあ、パンに作り変えよ。

もしお前が神の子であるのなら、

見せてくれ、これらの石をパンにするところを。

その時には、たっぷりと食べることができよう。

さあ、お前の空腹感を減少させるためだ。

(9)

イエス 人の命はパンが支えるばかりではなく、

はつきり言っておく、神の言葉次第によるのだ。

人間の魂にとって良質な食べ物は他にない、

いつも説教されている神の言葉ほどには。

普通のパンは血液に滋養を与えるが、

否定できないのは、人間の魂にとって、

これ以上により良い食べ物はないはずである、

いつも耳で聴いている神の言葉ほどには。

それゆえ、神の言葉を聞くために、人間は愛するのだ。

あなたの肉体は普通のパンを好むが

神の言葉がなければ、あなたの魂は死んだも同然なのだ。

それゆえ、説教を愛するように忠告する、
もし天上の至福に留まるつもりがあるのならば。

(10)

サタン 目ではつきり判るほどの大きな飢餓に陥っていないので、
お前は大食の罪を犯すことはないだろう。

さあ、寺院へわしと一緒にいこう。

そうすれば、その場所で素晴らしい業物をお前に見せてやろう。

さあ、この尖塔に登ろう。

一番高い先端へお前を据えたら、

お前が何者かを明らかにしよう。

我ら二人が別れ別れになる前に、

お前が何を手にできるのかを付きとめてやろう。

〔ココデ、神ハ寺院ノ尖塔ニ降り立ツ。悪魔ハ更ニ続ケル。〕

尖塔の上に立ったら、

そこで、不思議な見世物を演じてくれるのか、

あるいは、偉大な奇跡を見せてくれるのか――

怪我することなく身を守れるかどうかだ。

〔ココデ、さたんハいえすヲ尖塔ノ上ニ据エル。〕

(11)

さあ、力ある神の子であるのなら、

地上まで真つ直ぐ落ちて、

どんな目に遇つても、自分を救うことができよう――

傷は負わない、怪我もしない、滑つて転ぶこともない。

なぜなら、お前は光り輝く天使と共にある、と聖書に書かれている――

天使たちは天上のお前の父親の大広間にいる、

夜も昼もお前に仕えるために。

お前の家来として、天使たちは用意しているのだ、

怪我をしないように。

石ころにつつ転んで、

歩いていく時に、足を怪我しないように、と、

天使一人一人が用意をすべて整えているのだ、

お前を助けようとして。

(12)

イエス 聖書に書いてある――

神である主を試みてはならない、と。

すべてのものは神の顔かほに従わなくてはならない。

誰も神の力から除外されてはいない。

お前の呪いと非情な罨あやから

神の慈愛によつて、人間は贖あがなわれる、

燃える小川である地獄に

つまりは、終わりのない苦痛にお前が向かうべく、

その場所に永遠に留まるように裁かれる時には。

お前の主である神をこれ以上試してはならない。

お前の話の内容にふさわしくない。

それゆえ、直ぐに話を止めるように、

また、もうこれ以上、神を試さぬように命じる。

(13)

サタン ああ、大食の罪へも慢心の罪へもうまく導けなかった。

キリストを誘惑しても俺の利益にならない。

今は新しい旅をし始めなくてはならない。

奴を貪欲の罪へ誘惑することを思いついた。

と言うのも、蝸牛のように縮こまってこのように立ち去るのなら、
いままでにやってきた骨折りが無駄になろう。

左百十八

それゆえ、我らが殿下を貪欲で試み、

その罪に引き入れられるかどうかやってみよう、

それも直ぐにだ。

旦那さん、もう一度だけ、あなたにお願いだ、

この高い丘まで俺と一緒に来てくれ。

たくさん都市をご覧にいれよう、

それに、たくさんさんの見ごたえのある風景も。

〔ソシテ、いえすハ丘ノ上ヲ悪魔ト横切ル。悪魔ハ続ケル。〕

(14)

北側にある平原を見なさい。

バビロニアの塔が見えるだろう。

その背後にエルサレムの街が際立ち、

その直ぐ近くにガリラヤがある。

ナザレに、ナヴァツレとスペイン王国、

ザブロンと豊かな国であるネプタリム、

ゼベとサルマナの両方もしっかり見えよう。

立派な王国であるイタイルとアルカージも、

ジャンユエンスとジュリエの両方も。

右前方にはローマが立っている、

銀色に輝くソロモンの寺院と――

視界にはっきりと入っているであろう、

フランスとノーマンデューの両方が。

(15)

こつち側に体の向きを変えて、ロンバルディアを見よ、

何百という香木の多くが育つ、

アルカスとアラゴンと偉大なアルモニと、

パリとポルトガルとゴールの町、

パウンテスとポパリングとピカルデイ、

アイルランド、スコットランドにウェールズの国、

大きな塔と城の数々を目にすることができよう。

そのとおり、これ以上を言わなくても、この広い世界のすべて、

これらすべては俺の持ち物だ。

もし大地にひざまづき

この瞬間にも俺を拝めば、

かくも丸いこの世すべてを

お前にくれてやろう。

(16)

イエス 引き下がれ、悪辣なサタンよ、

聖書には書かれている――

あなたの主である神をどの場所においても崇拜せよ、

主の僕として、また、あなたは神の家来であるからだ。

サタン おお、なんとということだ、この悲しみといたら！

こやつはなんとという奴かと不思議に思う。

奴にどんな罪をも犯させられない、

間違いをしでかせるような罪など何もない。

奴は俺に引き下がるように命じた。

奴が何様なのかが分からない――

神なのか人間なのか、なんなのか。

どの程度にも言うことができない――

悲しくて屁が出るわ。

〔ココデ、天使タチガ「主ヨ、アナタニ栄光アレ」ト歌イナガラヤツテ来テ神ニ御スル。〕

(17)

イエス 今や、すべての人間よ、模範としなさい――

今が今、目に見ているこの偉大な仕事によって、

真つ黒い地獄の悪魔が

わたしを誘惑して罪に陥らせようとせつせと励んだ様を。

悪魔には巧妙な騙しがあったにもかかわらず、

奴は打ち負かされ、今は逃げてしまった。

これはすべて、人間のためにこうむった苦しみであり、

いかに自分を律するかということを教えるためだった。

悪魔があなたを試みようとする時、

罪を決して犯さないように注意していなさい、

巧妙な騙しや罠があったとしても。

そうすれば、あなたは勝利を勝ち取るだろう

悪魔がなすすべての骨折りもついでてしまうだろう。

(18)

誘惑に耐えるのは大きな苦しみだ、

もしも誘惑によく耐えるのなら、大きな報いを勝ち取るだろう。

神からより多くの恩寵を確かに受けるのだ、

悪魔の仕業に敵対するならば、

たとえ悪魔が再び誘惑しても

その力なぞ恐れることはない。

なぜなら、神はあなたに力という力をお与えになっておられる。

必要となればいつでも悪魔と敵対するために、

悪魔よりも強い力を持っている。

悪魔が誘惑を掛けて来たら、

その時には、あなたの敵に齒向かう力を見せてやるのだ、

魂があなたから離れる時には「一同ハあーめんヲ唱エル。」

喜悦のなかにあるだろう。〔写本は以下が余白。〕

第二十四番演目 姦通の女

〔コレハ姦通ノ現場デ捕ラエラレタ女ノ演目ナリ——「死罪ヲ犯スナ。」〕

百二十一

(1)

イエス 人間よ、犯した罪を悔い改めよ。

間違えていたことを改めるならば、

天国を継ぐことになるだろう。

たとえ神を深く悲しませることをしたとしても、

敢えて慈しみを求めるようにしなさい。

神の慈しみはしかるべき熟慮されていて、

何倍にも残酷さを増し、すべての裁きをなされる。

(2)

犯した罪がそんなに大きなものでなくとも、

神と真面目に向かいあって、慈しみを求めなさい、

直ぐに、わたしの父の慈愛を得ることができ、

目から涙が少ししか流れていなくても、

わたしの父はそのような人でも贖うようにわたしを送られたのだ。

あなたが犯したすべての罪にたいする贖いをわたし自身が支払わなくてはならない。

あなたを愛するから、わたし自身が死ぬことになるだろう。

あなたが慈しみを求めるなら、わたしは決して否とは言わない。

(3)

天上から地上へ

あなたの悲しみを止めにさせ、喜びを取り戻させるために。

人間よ、すべてはあなたを愛するがゆえにこの地上に降りてきたのだ。

お返しにわたしを愛しなさい——それ以上は求めない。

たとえ、あなたが不運にもひどい罪を犯したとしても、

それでも、もう一度向きなおして、慈しみを求めなさい。

道を失ったならば、それはあなたが悪いのだ。

慈しみを求めなさい、そうすれば与えられるでしょう。

(4)

隣人に対して復讐してはならない。

掟に反して隣人が罪を犯しても、

隣人と同じように、あなたも罪を犯さないともかぎらない。

自分自身の心のもろさにいつも気遣いなさい。

隣人が改心する手伝いをもつともつとしなさい、

隣人の方こそあなたを手伝うべきとあなたが望むように。

隣人に対して怒りを燃え立たせたら、

まったく同じことがあなたに対しても起こりうるであろう。

(5)

一人一人が他の人に対して慈しみ深くありなさい。

そうすれば、それを必要とする時に慈しみを受けるだろう。

慈しみのある人でどんな人が御しやすくないことがあるか、

慈しみを求める時に——そんな人は、繁栄することはないだろう。

確かに、慈しみを与えるためにわたしは天から降りてきた。

慈しみを求める人は誰でも恩寵が与えられるだろう、

誰も自分の罪ある行いに疑いを持たせないで。

その代わりに、時間に余裕のあるうちにはいつも慈しみを求めなさい。

(6)

律法学者 ああ、なんとということだ、我らの掟は無と化した！

イエスという名の偽善者が、

羊飼いの娘から産まれたのに、

我らが掟を破り、不完全なものにしてしまうだろう。

我らに大恥をかかせるようなことをしてかすだろう、

奴がその偽りの目的を持ちつづけるならば。

奴は我らのすべての掟を侮辱するのだ――

その悪臭を放つ乞食は不思議なくらい大胆だ。

(7)

パリサイ人 学者のあなた、あの偽善者は確かに

この国をすべて奴の信教に変えてしまうだろう。

だから、奴を告発するように勧めます。

それゆえ、奴を十分に折檻してやりましょう。

律法学者 たくさんの人々が奴を信仰の対象にしている。

説教をする時にとても陽気なので、

どいつもこいつも奴に従っているのだ——どんどん人数が増えている。奴の言うことに誰も否とは口にしないのだ。

(8)

パリサイ人 もし法にもとる議論を装えるなら、

百二十二 (K帖)

あの偽善者に罪を負わせるために、

奴の説教のすべては霧散するはず。

60

そうなれば、奴を敬うことは恥ずべきことになるはず。

奴の名を少しの偽りで破滅するため、

奴の教えを破滅させるように皆でやってみよう。

人々を焚きつけて奴に腹を立てさせるように仕向けることができれば、

その時には、直ぐにでも我らの思いどおりに事を運べるはずだ。

(9)

告発者 お聞きください、パリサイ人と学者さま、

65

丁度いいお遊びをあなた方にお教えできます。

その権利を良い賄賂で引き受けます——

本心をすべて明かさないでいるべきです。

美しく若い女がこの辺に住んでいます、

見たら直ぐにそうだと分かります、はつらつとし、陽気です。
それに、背の高い男がその女と関わっていて
女の部屋へ入り込むことまでしたんです。

(10)

我々三人で真つ直ぐその部屋へゆきましよう——
そこまであなた方をお連れしますから、
奴らを二人とも捕まえましよう、
罪深い行為をしている真つ最中に。

律法学者 うまく行くのは確かだろうか——

そこへ行ったら男が見つかるだろうか？

告発者 真実言って、わたしは心配していません、

巣穴から野兎を追い出しましょう。

(11)

パリサイ人 もしこれが本当なら、獲物が手に入るだろう。

我ら三人が一致して仕事にかかろう。

イエスの目の前だけでも、ここへ女を連れて来て、
女の生き方の真実を見せよう——

いかに女が毎日の生活で姦通に身を入れていたかを。

女が奴の前に引き出された時には、

真の裁きをするように奴に求めよう、

どのような法に基づく死罪が女に当てはめられるのかを。

(12)

奴は恩寵と慈しみについてはいつも、

また、誰も復讐してはならないと説教している。

この女を断罪したら、

その時には、お説教していることと矛盾することになる。

そして、もしも奴の言動が違うことがわれわれに分かったら、

今までに教えてきた説教と。

ならば、その時は、正当にして有効である告発理由を得ることになり、

虚偽の男として、逮捕できる。

(13)

律法学者 今こそ、偉大なる神にかけて言う、あなたは実にいいことを口にした。

奴が違うことを言うとは分かったら、

あなたが言ったようにまともな理由を得ることになり、

奴を不運に陥れられる。

それでもなお詰らないことにしがみついて、

奴らを救うための慈しみを説教するのであれば、

その時には、大義名分が我らにあることになる――

奴を殺し、墓に埋めるための大義が。

(14)

このように言う大きな理由は、

モーセが掟において命じているからだ――

姦通を犯した者は誰でも殺すべきである、と。

しかも、石でもって殺すべき、と。

もし奴がモーセの掟にそむいて、

慈しみをもってその罪深い女を助けるならば。

奴は我らの恐怖から逃れることはできずに、

子犬のように死ぬだろう。

(15)

告発者 皆さんは時間をかけすぎです、と言いたい。

想像するに、例の奴らは直に別れてしまおうでしょう。

それゆえ、祈るつもりが今あるなら、

悪ふざけの最中の二人を捕まえにゆきましよう。

パリサイ人 お前が先触れとして行け。

我らは直ぐ後を付いて行く。

もしもその女を嘆かせることができばいい、

イエスをうまく騙せるといいが。

(16)

律法学者 戸口を破って中に入れ。

力いっぱい肩を当てて押せ。

罪を犯している最中に掴まえてやろう。

奴らの犯してる罪そのもので告発できる。

〔ココデ、一人ノ男ガ、衣服ヲ纏ワズ、靴下留メヲ縛ラズ、ずぼんヲ手ニ、外へ飛び出シテクル。告発者ガ言ウ。〕

告発者 誰か地上の者よ、あの売女を止めろ、

奴の姦通の現場を見つけたぞ。

若者 今晚、誰かこの俺を止めたりしたら、

そいつに死ぬほどの傷を負わせてやるぞ。

(17)

誰でも俺の行く手を阻む奴は

別れる前に、俺は死んでしまっただろう。

この短刀をそいつのどてっばらに突き刺す。

奴に殺される前に奴を殺す。

パリサイ人 偉大な神の呪いがお前と一緒にあれ！

こんな奴とは関わりを持つつもりはない。

若者 お前たち三人におんなじ祝福をくれてやる！

お前たちみんなを地獄の悪魔に引き渡してやる！

実際、おれは酷く恐れている

お前たち三人の野郎を、本当を言えば。

ズボンの紐をまだちゃんと縛っていない、

逃げ出すのにすっかり急いってしまったから。

あんなに大騒ぎをしたのに俺を捕まえることはできないだろう。

逃げおうせて本当に嬉しい。

さらばじゃ、さらばじゃ、二十の悪魔道だ！

そして、お前たち一人一人の上に神の呪いがかかるように！

130

135

左百二十三

140

(18)

律法学者 あばずれめ、こっちへ来い、すれっからしめ、こっちへ来い。

こっちへ来い、恥知らずめ、ずうずうしい売女め、

こっちへ来い、売春婦め、臭い雌犬め、

どれほど長いこと、こんな売春をやっているのか？

パリサイ人 こっちへ来い、下司女、こっちへ来い、売女め、

こっちへ来い、だらしのない奴、こっちへ来い、ふしだらな女、

我らはお前に教えてやる、冷たい心配をこめて

お前が置かれた状況をもう少しは良く分かってもらうために。

(19)

女 ああ、慈しみを、慈しみをわたしに、みなさま、あなたがたに願います！

神の愛に掛けて言います、わたしに慈しみを

わたしの間違った生き方についてわたしを責めないでください。

哀れと違って、慈しみをわたしに！

告発者 我らに慈愛を求めな、そうはいかんぞ。

お前のこれからの運命については次のように決める――

姦通をしたせいでお前を殺さなくてはならない。

それゆえ、こっちへ来い、悪臭を放つあばずれめ。

女 皆様、もしもわたしの信仰を救ってください、

公に恥をさらすことのないように助けてくださるならば、

金貨も銀貨も差し上げましょう。

そうなれば、あなた方はわたしの名前を汚すことはありません。

律法学者 賄賂を受けると我らは非難されるだろう、

こんなあばずれを救うなど、そんなことはありえない。

お前を一つの遊びへ連れて行こう。

そうすれば、お前を模範として、すべての姦通者は学ぶだろう。

(20)

女 たとえわたしに慈しみをくれるつもりもなくとも

わたしの罪のためにわたしは死ぬだろう。

どうかお願いします、この場でわたしを殺してください。

そして、わたしが死んでも人々が泣かぬようにしてください。

もしも公に中傷されるのならば、

それはわたしのすべての友にとって恥となるでしょう。

どうかお願いします、わたしをこっそり殺してください。

わたしが受けた非難を人々に知らせないでください。

(21)

パリサイ人 おお、なんたるあばずれ、悪魔に殺されてしまえ！

掟にそむいたお前を殺してやる。

最初に、地獄の悪魔がお前を縛り首にするだろう、

我らがそのような悪さをなすとげる前に、

たとえおまえには少しも気に入らないとしても。

予言者の前にいるのだから、お前は法を全うすべきだ、

丁度モーセが我々にたいして命じたように、

大きな石でもってお前は殺されなくてはならないだろう。

(22)

告発者 もうちよつとこつちに寄れ、悪臭ぷんぷんのあばずれめ。

今日は預言者の前にいるのだ。

さもなければ、思いきり頭を殴ってやるところだ、

途中でぶつ倒れるくらいに。

律法学者 今や偉大なる神にかけて言う、もしお前に支払うつもりなら、

お前を殴ってやろう

お前の齒という齒が、あえて言っておくが、
頭の中で、悲痛ゆえに、がたがたになるくらいに。

(23)

パリサイ人 よく聞け、預言者よ、皆であんたにお願いだ、

左百二十四

真実の裁きと正当な宣告を出してくれ、

今日のこの日、この女の上に、

罪である姦通を犯している。

195

〔ココデ、女が告発サレテイル間、いえすハ地面二人指シ指デ文字ヲ書キ続ケテイル。〕

告発者 ご覧ください、あなたの目の前に女を連れてまいりました――

あなたは賢い預言者です。

良心にかけて、話してください、

どのような死罪がもつともこの女にふさわしいと思うのかを。

(24)

200

律法学者 モーセの掟の中にしかと見出せる――

こやつらのような偽りの愛人たちは殺さなくてはならない。

棒杭に二人を直に縛り付け、

頭を大きな石でぶち割らねばならない。

あんたの良心を簡単に聞かせてくれ――

この女には何をすればいいのか。

このまま女をおとなく帰してやるか、

死罪に処するかを。

〔いえすハ何モ応エズ、相変ワラズ地面ニ字ヲ書イテイル。〕

(25)

女 さあ、聖なる預言者さま、慈しみを！

哀れなわたしに報復などしないでください、

実に不快なわたしが犯した罪の数々にたいして。

心の底で、大いに後悔をしています。

不幸な目にあうのはわたしにとてもふさわしい、

体の死と地上での恥辱ともどもを。

しかし、慈しみ深い、救助者である預言者さま、

今回は、神の名にかけて！

(26)

パリサイ人 お前は掟に反して罪をなした。

それゆえ、神の慈しみについてはもう口に出すな。

モーセが掟のなかで下している判決どおりに、

石打ちの刑で死ぬのだ。

告発者 その話はやめにして、預言者さま、あなたの話を聞かせてください。

この女を石で殺しましょうか、

あるいは、女の家に戻らせましょうか――

この件に関してのあなたの意思をお聞かせください。

(27)

律法学者 あなたは冷静に黙想しながらお座りのように思われます。

さあ、旦那さん、目を覚ましてあなたの考えをお話ください。

石打ちの刑にしますか、お知恵をお話ください。

あるいは、どのような規則で女を裁きますかね？

イエス よいか、あなた方のうちで、罪を犯したことがまったくなく

この女性よりも清い行き方をしている者が

石を投げよ。また、女性を見逃すな、

きれいに罪からまぬがれているのならば。

〔ココデ、いえずハ腰ヲカガメルト再ビ文字ヲ地面ニ書キ出ス。スルト、全テノ告発者タチハ、マルデ混乱シタカノヨウニ散リ散リトナリ、三方ニ向ケテ立チ去ル。〕

パリサイ人 ああ、ああ、恥ずかしい！

(28)

わしは死ぬのではないかと心配だ。

すべてのわたしの罪に正しく名前を付けられた

あそこにいる預言者はわたしの目の前で確かに書いた。

それを覗き見た仲間が

遠く広く至るところで口にすれば、

わたしの罪ある生活を大声で告げたら、

どこにこの頭を隠したらいいのか決して分からない。

(29)

告発者 ああ、悲しみに俺の心臓は血を流している。

あそこいる男が俺の罪のすべてを記した。

それを俺の仲間が注意して読んだら、

死罪から俺をまぬかれさすことはできない。

どこか人目に触れぬところに身を隠したいものだ、

俺の姿を見ず知らずのような所に。

捕まるのではないかと心痛の思いだ。

235

240

左百二十五

245

大きな恥に投げ込まれるだろう。

(30)

律法学者 ああ、悲しいことだ、このようなことを引き起こされた時代が！

実に苦い心配がわしを抱きしめる。

わしのすべての罪が今や暴かれた、

あそこにいる男がわしの目の前ですべての人の罪の出所を明らかにした。

もしもこの場所から外へ一度でも出れば、

大きな死をこうむり、正当な報復を受けるだろう。

あの男の目の前に出るつもりはない、

たとえ馬小屋で死ぬことになっても。

(31)

女 それ相応の罪を犯したのだから、

忌まわしい死をこうむるにふさわしくあっても

それでも、高き慈しみを持つ聖なる預言者よ、

あなたが裁く時には、慈しみがありますように！

もはや決して気の多い者にはなりません。

おお、聖なる預言者よ、わたしに慈しみをお与えください、

わたしに理不尽な罪にたいして。

わたしの心すべてをこめて、済まない思いでおります。

(32)

イエス あなたを告発した敵たちはどこにいるのか？

我々だけを残して行ってしまったのはなぜだ？

女 それは自分で自分を許すことができなかつたからです。

誰も彼もが恥ずかしいので、ここから逃げ出してしまいました。

しかし、慈しみ深い預言者よ、わたしの苦しみを聞いてください、

百二十六 (M帖)

わたしの悲しみに同情してください。

270

今やわたしのすべての敵はここからいなくなりました。

慰めの言葉のいくつかをおっしゃってください。

(33)

イエス あなたが今までに犯した罪にたいして

誰もがあなただを責めてきた。

女 いいえ、真実言って、そのようなことは少しもありませんで、

275

あなたの慈しみの中にわたしを置いたのです。

イエス わたしのせいで責められることはないだろう。

265

家に戻りなさい、堂々と歩きなさい。

よいか、誠実に生きるようにしなさい、

そして、二度と罪を犯さないようにしなさい、と命じます。

(34)

女 聖なる預言者よ、あなたを高く感謝します——

この大きな慈しみをわたしにお与えになりました。

すべてのわたしの無節操な行き方をやめにし、

神の真の僕となるように努めます。

イエス どんな人間でも罪を悔いて、

神に慈しみを求めるなら、

神の慈しみは豊かにあるので、

どんな人間が求めても、慈しみを得られるだろう。

(35)

どんな人間でも罪を深く悔いているのなら、それは恩寵をすでに得ているのだ。

神は古い昔の怒りをいつまでも胸に留めておられずに、

より良くそういう人を愛するのだ、

痛く後悔していることが見つければ。

今や、すべての人間のために死んだ神は

これらすべての人々を、夜も昼も、救われ、

我らを罪から解き放してください。

天の高き主、できるだけそうあれかし！〔一同、あーめんヲ唱エル。〕

〔「姦通の女」が終わり、「ラザロの甦り」へ続く。〕